週刊 観光経済新聞
宿泊・旅行業・運輸・自治体（観光全般）

日本専門新聞協会加盟紙
国土交通省交通運輸記者会所属
発行所
東京都台東区池之端２－７－17
井門池之端ビル　〒110-0008
株式会社観光経済新聞社
電話　03(3827)9800(代)
FAX　03(3827)9730

北海道支局
札幌市中央区北６条西27丁目1-3-705　〒064-0826
電話　011(624)5030
FAX　011(621)2530

関西支局
大阪市北区梅田1丁目11番4－1000号
大阪駅前第4ビル　〒530-0001
電話　06(7636)6377
FAX　06(6131)6199

九州支局
福岡市早良区室見1－12－1－508　〒814-0015
電話　070(6666)6350
FAX　092(836)7992

購読料年間 19,800円(税・送料込)
(税抜18,000円)

振替口座　00140-2-86888番
e-mail info@kankokeizai.com

全国のコンビニ
約58,000店舗で
観光経済新聞が
買える
ePRINTサービス
Powered by eSHINBUN

新年号

◎他面の主な記事

☆5面…2026年観光業界の焦点
☆8～11面…旅行業大手4社トップ座談会
☆16・17面…宿泊4団体トップインタビュー
☆18・19面…旅館経営者座談会
☆22・23面…外資OTA座談会

2026年、観光立国から観光先進国へ

「温泉文化」の魅力を世界へ

平井伸治

「温泉文化」ユネスコ無形文化遺産登録を応援する知事の会 会長に聞く

観光業界が熱望する「温泉文化」の国連教育科学文化機関（ユネスコ）無形文化遺産登録に向けて、業界団体とともに活動しているのが「『温泉文化』ユネスコ無形文化遺産登録を応援する知事の会」だ。会長を務める平井伸治・鳥取県知事に会の活動や登録の意義、自身の温泉に関わるエピソードを語っていただいた。

ユネスコ登録

地方経済に大きな影響

温泉だけに〝スパッ〟と決めたい

――（聞き手＝本社取締役編集長・森田淳）

「温泉文化」ユネスコ無形文化遺産登録を応援する知事の会について。

群馬県の山本一太知事や石川県の馳浩知事ら有志で立ち上げたものだが、仲間がどんどん増えて、今は47都道府県全ての知事が参加している。つまり、全都道府県が温泉文化を世界の無形文化遺産として認めてもらおうと、この運動に関わっているわけだ。

これまで国会議員や大臣を含めた政府関係者に向けた陳情活動、要望活動を進めるとともに、関係する旅館関係者や学者、温泉愛好家などとも連携しながら、登録に向けて必要な研究や調査活動を進めてきた。

活動を重ね、温泉文化の定義も決まり、世界に向けユネスコ無形文化遺産候補へ道を開いた。

――知事から見た「温泉文化」の魅力について。

古来、日本には多くの名湯があり、さまざまな逸話も残されている。例えば兵庫県の有馬温泉には「月も日もいのち有馬の湯にうつりやまひ（病）はなしの花とちりけり」という豊臣秀吉の歌が残っている。

私どもの鳥取県には、左馬之祐（さまのすけ＝源義朝の家来・大久保左馬之祐）という人物が白い狼に導かれて温泉を見つけたという三朝温泉の逸話が残っている。

このような逸話が全国各地に残っている。それは、温泉が古くからわれわれにとってとても大切な存在だったからだろう。

フィンランドのサウナがユネスコの無形文化遺産に登録されているが、頭からかぶり、歌を歌いながら延々と湯につかる「湯かむり」という文化がある。

これらは人々の心と体を癒やす、昔ながらの知恵だったのだろう。これらの素晴らしい文化を世界に広めていきたい。

これはその入り方や楽しみ方が文化として、世界の人から認められたからだ。

日本にも旅館で温泉につかり、浴衣に着替えてごちそうを食べて布団で寝るという文化がある。鳥取県にはぬるめの湯を好む行為も注目され、日本に行ったらぜひ体験したいと思われるようになったからだろう。

和食が温泉文化に先立って無形文化遺産に登録されたが、あっという間に海外の市場に広がった。同じように、温泉文化がユネスコ登録されれば、その文化を体験したいと、海外の人が日本への旅行を考えるさらなる動機付けになるだろう。

温泉は全国各地に点在している。現在、有名観光地で「オーバーツーリズム」が叫ばれている中、その魅力の発信は、日本全体にお客さまを分散させる効果がある。

温泉地に行けば土産物を購入したり、現地の交通機関を使ったりするだろう。温泉文化のユネスコ登録が決まれば、特に地方の経済に大きな影響を及ぼすはずだ。地方の経済を豊かにして日本を強くするという政府の目標は、温泉文化のユネスコ登録が実現してこそ達成するのではないか。

温泉地の旅館の方々はコロナ禍で大変な苦労をされ、残念ながら廃業せざるを得なくなったり、資本が変わったりする例も多くあった。

――温泉文化のユネスコ無形文化遺産登録は、日本の観光にどのような影響をもたらすか。

近年、インバウンドの観光客が増加し、国も6千万人の目標を掲げて新たな需要を開拓しようとしてユネスコの無形文化遺産に登録されたが、あっという間に海外の市場に広がった。同じように、温泉文化がユネスコ登録されれば、その文化を体験したいと、海外の人が日本への旅行を考えるさらなる動機付けになるだろう。

温泉は全国各地に点在している。現在、有名観光地で「オーバーツーリズム」が叫ばれている中、その魅力の発信は、日本全体にお客さまを分散させる効果がある。

温泉地に行けば土産物を購入したり、現地の交通機関を使ったりするだろう。温泉文化のユネスコ登録が決まれば、特に地方の経済に大きな影響を及ぼすはずだ。地方の経済を豊かにして日本を強くするという政府の目標は、温泉文化のユネスコ登録が実現してこそ達成するのではないか。

温泉地の旅館の方々はコロナ禍で大変な苦労をされ、残念ながら廃業せざるを得なくなったり、資本が変わったりする例も多くあった。

――温泉文化のユネスコ無形文化遺産登録は、日本の観光にどのような影響をもたらすか。

近年、インバウンドの観光客が増加し、国も6千万人の目標を掲げて新たな需要を開拓しようとしている。その際に重要となるのはカスタマーだ。

私が知事に就任した当時、19年前は、外国人観光客に温泉の話をしても、あまり心に響かない感じだった。「温泉に行くと裸にならなければいけない」「浴衣の着方が分からない」「旅館にはベッドがない」などと抵抗感が強かった。しかし、この10年ほどで状況は様変わりした。

日本に来られた方に「また日本に行くとしたら何をしたいか」と聞くと、約半数の人が「温泉に入りたい」と答える。

これは、漫画をはじめとした日本のカルチャーがさまざまな媒体で世界に広まる中で、日本人が大好きな温泉につかるというのが各地で見られるようになった。ユネスコ登録が決まり、海外を含めて多くの観光客が訪れるようになれば、長く苦しんできた業界も救われることになるだろう。

板前さんを確保してお客さまにおいしい料理を提供することや、女将さんを中心としたホスピタリティの提供、温泉設備の維持管理など、旅館経営はさまざまな努力が必要だ。

鳥取県では令和5年の台風7号で、三朝温泉の「河原風呂」が川の増水により埋没してしまった。皆で力を合わせて復旧に取り組んだが、このように温泉を守り、継承する努力を多くの人が行っている。このような取り組みを多くの人々に知ってもらうためにも温泉文化のユネスコ登録をぜひとも実現させたい。

――知事で自身の温泉地や温泉旅館での印象に残った出来事やエピソードを。

現在の私と同じくらいの年齢で父親が他界した。病気を抱えていて、家でじっとしていなければならなかったのだが、亡くなる前に私ら子供、孫など家族を集めて、どうしても温泉に行きたいと言った。「無理しなくてもいいのでは」と当時、話したのだが、父の言葉に素直に従って、みんなで箱根に行った。父は私たちに食事をごちそうしてくれたり、孫にお土産を買ってあげたりした。それが最後の思い出となった。

みんなで集まり、大切な思い出を作るなら温泉、ということが私たち日本人の意識にあるのだろう。今でも温泉の湯煙の中に父の姿を見るような気がする。

最近ではコロナ禍の時期、県内の温泉地に伺った時のことが心に残っている。私は感染を抑えるための啓発をする立場だったが、皆さんが歯を食いしばって旅館やホテルを守っておられる中、夫婦で2カ月に1回くらい県内の温泉地をプライベートで訪問していた。

宿泊客がほとんどいない状況の中、旅館の方々からさまざまな話を聞くことができた。「社員教育に力を入れる」「外国のお客さまも使いやすいベッド付きの部屋を作る」など、さまざまな前向きなお話を聞き、実際にそれ以降、県内の宿泊施設は大きく変わった。今、コロナ禍から立ち直った温泉地を見るにつけ、当時のことが思い出される。

――温泉文化の継承に努める旅館など事業者にエール、メッセージを。

大変な時期を乗り切り、今、徐々に本来のペースを取り戻しておられると思う。われわれ47人の知事も皆さまに寄り添う気持ちで、この温泉文化のユネスコ無形文化遺産登録を実現させたい。

群馬県の山本知事とともに、大阪・関西万博会場で行われた全旅連（全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会）青年部主催の「宿フェス」に伺った。温泉旅館の若旦那や若女将らの若手経営者や現場の最前線で働く人々が、各都道府県の観光地や温泉地の魅力をアピールされていた。国内外からの来場者が心を引かれ、会場は終日大にぎわいだった。

会場では温泉旅館の若い方々でユネスコ登録に向けた「万博宣言」で雄たけびをあげた。登録を目指し、さらにレベルを上げていこう、日本の温泉地と世界の距離を縮めていこうとアピールしたところだ。

登録に向けて、今が正念場。温泉だけに〝スパッ〟と決めたいと思う。

「温泉文化」と鳥取県の温泉のポスターをバックに

観光・宿泊・飲食業向けの商談展示会
第1回 ホスピタリティテックEXPO
観光・宿泊・飲食 × AI・DX・ロボット
事務局長 細野 圭
RX
RX Japan合同会社

ホテル旅館
[提携誌]Cornell Hospitality Quarterly
●紙版 奇数月22日発売
●電子版 奇数月27日配信
●A4変型判　●定価2,200円（税込）

お求めはお近くの書店、または弊社営業部、ホームページへ 柴田書店
問合せ・注文窓口＝TEL 03-5816-8282　https://www.shibatashoten.co.jp
勃興する観光業界を生き抜くための経営に向けて
最新情報を発信する宿泊産業の専門誌

2025-26 12/1月号　好評発売中
【特集】時代とともに変わる“居心地”の定義
新時代の客室設計
〈注目ホテル・旅館の最新客室〉
奥道後 壱湯の守（松山）／葛城 北の丸（袋井）／ SOIL Nihonbashi Hotel（東京）
ANA ホリデイ・インリゾート信濃大町くろよん（大町）
〈独自性が光るコンセプト客室〉
龍宮城スパホテル三日月 龍宮亭（木更津）／ UNO HOTEL（玉野）
パークイン五所川原エルムシティ（五所川原）／ MUJI HOTEL GINZA（東京）
ザ・ペニンシュラホテルズ インタビュー
ジョセフ・チョン氏（ザ・ペニンシュラ香港 代表取締役社長 総支配人）
マーク・チューン氏（ザ・ペニンシュラ東京 総支配人）
大場正久氏（ザ・ペニンシュラバンコク 総支配人）
旅館の投資研究
数寄屋造りの名工の建築と最高品質のインテリア・アートが融合
高山荘 華野（神戸）
今月の小規模店
浜湖月（滋賀）／赤城宿 珠蕾山荘（前橋）
海外レポート
1. ソフィテル レジェンド メトロポール ハノイ（ベトナム・ハノイ）
2. キームガウホフ レイクサイド リトリート（ドイツ・バイエルン州）
3. アルトシュタット ウィーン（オーストリア・ウィーン）
好評連載
ホスピタリティ産業経営における世界水準の人材育成術 ⑪ 原 忠之
次号予告
2026 2/3月号（1月22日発売）
【特集】
トップ経営者年頭所感
「2026年展望」
〈新春対談〉星野リゾート 星野佳路氏 × Destination Queenstown マット ウッド氏
●特別企画 都内3ホテルの大型リニューアル事例
パーク ハイアット 東京
ザ・プリンス パークタワー東京
ハイアット リージェンシー 東京
●海外レポート フォーゴ アイランド イン（カナダ）
●特別レポート 2025年リョケン旅館大学セミナー
「下部ホテル×MAGMA RESORTが描く『滞在価値2.0』」

観光地経営でめざす地方創生
観光産業・行政におくる、インバウンド客受け入れによる地方経済創生の処方箋！
観光地経営でめざす地方創生
インバウンド獲得の司令塔となる世界水準DMOとは
原 忠之 著 A5判 320頁 定価3,080円（税込） ▶電子版も配信中
最先端のアメリカのDMO（観光地域づくり法人）を見てきた著者が、DMOと観光協会のビジネスモデルの違い／地域住民向けマーケティングの重要性／ DMO主導の観光地経営などを解説。地域にふさわしいDMO構築のための道しるべとなる一冊。
和えもの百科
「和えもの」の全容をつかみ、自在に作りこなすための１冊
巻末には「和え衣図鑑」も収録。
和えもの百科
日本料理店の和えもの アイデアと技法
柴田書店編 B5判 136頁 定価2,860円（税込）
蕎麦前とつまみ
定番のつまみから居酒屋顔負けのアイディア料理まで、そば屋ならではの酒の肴のヒントを１冊に
蕎麦前とつまみ167品
柴田書店編 B5変判 144頁 定価2,860円（税込）